

人文科学研究所

I	研究水準	研究 19-2
II	質の向上度	研究 19-3

I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、教員一名当たりの欧文原著論文数は年間で 2.5 報以上である。共同研究に関し、25 の研究班を組織し、各班とも年 20 件近くの研究会を開催している。また、個人研究についても活発な研究を行っている。研究資金の獲得状況については、科学研究費補助金や、21 世紀 COE プログラムなどの競争的資金も継続的に獲得している。社会貢献の分野では公開講座を多様化し、奨励賞を設けて在野研究者の人文科学研究振興に努めていることなどは、相応の成果であることから、期待される水準にあると判断される。

「共同利用・共同研究の実施状況」のうち、附属漢字情報研究センターにおいて、閲覧複写サービスをはじめ、所蔵資料のデータベース化と公開などを行っていることは、相応の成果であることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、人文科学研究所の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、人文科学研究所が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 研究成果の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、中国哲学、美学・美術史、各国文学・文学論、日本史、東洋史、考古学、文化人類学、社会学、農業経済学の分野で、国内外から評価される研究が多く生まれている。卓越した研究成果としては、例えば、モンゴル時代の出版文化研究が、日本中国学会及び東方学会から賞を得た論文を含んでいる。社会、経済、文化面では、例えば、憲法 9 条の思想水脈をめぐる研究は、社会への貢献で卓越している。また、漢字情報研究センターでは、全国規模の研究資源を整備するとともに、図書館担当者を対象とする講習会を開催している。これらの状況などは、優れた成果である。

以上の点について、人文科学研究所の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、人文科学研究所が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している

当該組織から示された事例は6件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」と判断された。